

3 心の健康			
目標項目：3-1 ストレス自己チェックリスト実施者の増加			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H18 県民健康・ 栄養調査)	中間評価 —	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
成人 50%以上	19.2%		18.4%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	○有意な変化は見られなかった。(片側P値=0.328)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)			
その他データ分析に係る コメント	○年齢階級別にみると、20～50歳代まではあまり変わらず、60歳代以降は年代が高くなるにつれ実施している割合が低くなる(平成22年結果：20歳代22.3%、30歳代20.3%、40歳代20.8%、50歳代20.2%、60歳代16.3%、70歳代13.1%)。 ○男女別にみると女性のほうがやや実施している割合が高い(平成22年結果：男性16.2%、女性20.4%)。		
最終評価及びコメント	○変わらない		評価 C
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○ストレスの自覚やセルフコントロール能力の向上のための新たな方法による普及啓発が必要である。より多くの人に周知するため、健診の場や職域等での普及、広報誌等でのPRを進めていく必要がある。		

3 心の健康			
目標項目：3-2 気軽に相談できる相手のいる人の増加			
目標値 (平成 22 年度)	ベースライン値 (H12 県民健康・ 栄養調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
成人 100%	70.1%	62.4%	67.7%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	○平成 12 年から平成 22 年では有意な変化はみられなかった (片側 P 値=0.071)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○平成 17 年の調査結果は、仙台市を除く地域で実施した調査結果で ある。		
その他データ分析に係るコメ ント	○相談相手のいる割合は、女性のほうが高い (平成 22 年結果：男性 58.1%，女性 76.2%)。		
最終評価及びコメント	○変わらない		評価  C
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○女性と比較して男性は身近に気軽に相談できる相手がいる人が少 ないことから、職場などで気軽に相談できる場所などを確保してい けるよう、職域での相談体制の整備などについて、働きかけをして いくことが必要。		

3 心の健康			
目標項目：3-3 ストレス（心の健康）相談を標榜している相談窓口の増加			
目標値 (平成 22 年度)	ベースライン値 (H17 健康対策課調査)	中間評価 (-)	直近値 (H22 健康推進課調査)
1 市町村 1 ケ所以上	88.6% (39 市町村)		88.6% (31 市町村)
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	○平成 17 年から平成 22 年では変化はなかった。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○平成 22 年の調査結果は、「身近なところで気軽に相談利用できる窓 口の拡充」を実施している市町村数。		
その他データ分析に係る コメント			
最終評価及びコメント	○変わらない		評価 C
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○自殺対策の一環として、県と市町村共同で相談機関のPR用パンフ レットの作成配布を行うなどの取組みは進んでいることから、全市 町村での相談窓口の設置が行われるよう、自殺対策部署等と連携し て市町村への働きかけを実施していくことが必要である。		

3 心の健康			
目標項目：3-4 睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H18 県民健康・栄養 調査)	中間評価 (一)	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
成人 13%以下	14.1%		20.1%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○有意に増加した(片側P値<0.001)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○睡眠による休養を十分とれていますかの問いに対し「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合。		
その他データ分析に係るコメント	○平成22年度の結果を年齢別に見ると、40歳代が29.8%と最も高い。 ○男女別の大きな差はない。(平成22年結果：男性19.9%，女性20.2%)		
最終評価及びコメント	○休養を十分にとれない人は増加しており、悪化している	評価	D
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○全体として悪化傾向にあるため、質のよい睡眠を確保するための望ましい睡眠習慣などに関する普及啓発活動を一層進める必要がある。		

3 心の健康			
目標項目：3-5 自殺者の減少			
目標値	ベースライン値 (H17 人口動態統計)	中間評価 (-)	直近値 (H22 人口動態統計)
580人以下	631人		533人
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○自殺者数は減少し、目標を達成した。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○人口構成の変化等については考慮していない。		
その他データ分析に係るコメント	○宮城県の自殺者数は平成15～20年までは600人を超えていたが、平成21年は577人、22年は533人と減少した。 ○平成22年の自殺死亡率は22.8で全国平均の23.4よりやや低く、全国で高いほうから29位となっている。		
最終評価及びコメント	○目標値を達成した		評価 A
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○宮城県自殺対策計画に基づき、より一層の対策を推進していくことが必要である。		